

北海道・大雪山トレッキング

(報告) Furu、Sachi、Hoshi

◎山行期日：2017年8月9日～15日

◎メンバー：Sachi、Furu、Hoshi

◎コース：黒岳～白雲岳～白雲避難小屋（泊）～忠別岳～ヒサゴ沼避難小屋（泊）～トムラウシ山～東大雪荘

山行プランを提案

海外登山などの山行企画では前年末に計画をして比較的安い航空料金を海外に行けるようにしている。昨年の12月にそのような計画の一環として海外企画を提案したが、その一方で同じ“海外”ではあるが、日本の海外ともいえる北海道の山行を企画・提案することにした。

行ってみたいと考えた動機づけの一つに、同じ山仲間のお姐さんが過去十数年間も北海道の山に通い続けており、最近になってようやく卒業宣言をされたとの話を聞いたことと、北の大雪山はテレビや何かで何度か目にして一度はあのお花畑を歩かなければと考えていて体力的に可能性のある間に行くのが自分にとって最後のチャンスかもしれないと、参加者を募ることにした。

ガイド同行の縦走トレッキング

3人で行くことが決まったので、早速に先輩の Hagi 姐さんを囲んで話を聞き、彼女が信頼する登山ガイドを紹介してもらった。国内登山でガイド登山というのは初めての経験だが、北海道という場所での山行というのは、かねてより標識も少なく地図読みが必須だと聞いていたので迷うことなくガイド同行を依頼することとした。

電話で O さんというガイドに連絡すると、こちらの3人に対して山行に必要なテントなどの共同装備・食糧などを準備してくれて、リーダーにサブリーダーの2人がついてくれるという。それで朝・夕に暖かい食事を提供してくれるとのこと。料金は3泊4日で一人につき7万円である。よろしい話だと即断即決。

大雪という山

大雪山系というのは北海道の中央部に聳える火山群で3万年から1万年ほど前の辺りから噴火を繰り返し、噴出した溶岩流で広い高原が形成されたとある。基盤となっているところは海拔で1000メートル辺りらしいので、その上に厚い流動性の溶岩がさらに1000メートルも重なったということになる。

大雪山系といわれる場合は南北に63キロ、東西59キロと、その面積は神奈



川県とほぼ同じになるそうだ。実際に歩いていると後ろから来る人の足音がポコンポコンと空洞に響くような所が何度もあった。山道もほとんどがスレート状や団子状の石のガレ場で台地を形成した地史を実感させられた。そんな台地を石狩川が浸食してできた層雲峡と呼ばれる柱状節理の見事な岩肌を見ながらスタートの宿をとることになった。(以上 Furu 記)



チングルマ

エゾノツガザクラ



チシマギキョウ



イワブクロ



第一日目

8月10日 am 5:50 黒岳ロープウェイ入口にてO、Mさんの二人のガイドさんと待ち合わせ。天気も良く快調なすべりだしとなった。ロープウェイ&リフトと乗り継ぎ 1520m の7合目に到着。歩きだして程なくすると高山植物が咲いており、ワッ！綺麗！と声を、まだこれから先沢山見られるよ！とOさんの声に期待で胸を膨らます。黒岳頂上からは雪が残る山々が、これから向かう王冠を被った姿のトムラウシが雲の間に見え隠れする。

石室の先からはチングルマ、エゾコザクラ、等々花が咲きほころんでいる。雪解けの雪渓の廻りにはエゾコザクラが満開、北海道の山は 2,000m 未満の高度でも本州の山の 2,000~3,000m の山に匹敵する花が咲いている。北海岳のお釜からはガスが吹き出して匂っている。360度のパノラマ、雄大な山々に暫しうっとりし、白雲避難小屋へ向かう。到着すると今夜は私達5人の他は4~5人居るだけでゆっくりと過ごすことができた。

第二日目

8月11日、am 6:00 今日から2～3日は雨模様のため、当初予定の忠別避難小屋ではなくヒサゴ沼避難小屋へ霧雨のなかを出発。雨のなか、岩場、木道と足下に注意しながら歩くので廻りの景色が見えず、時々立ち止まり天気が良ければさぞかし綺麗だろうと想像力を働かす。そのうちに、雨、風が強くなり靴の中、着ている服も濡れて寒くなり必死の思いで忠別岳～(化雲岳は登らず)ヒサゴ沼避難小屋を目指す。避難小屋はテント組も避難小屋泊まりとなり満員状態となり、明日は今日より雨が強くなりそうなので停滞することとなった。ガイドのOさんより何万年まえからの大雪山のなりたちや花の名前を教えていただいたのだが3日も待たずに忘れてしまうこの頃で、思い出せずにいます。ただトムラウシの遭難事故の話は現場で聞くことにより、より現実味が増し、この教訓は風化させることなく、肝に命じ事故をなくしていきたいと改めて思いました。



(以上 Sachi 記)

第三日目

8月9日からOガイド、M君と5人で歩き始めて白雲岳避難小屋泊～ヒサゴ沼避難小屋泊と歩いてきた。今日は12日で山中3泊目なのだが雨のためにヒサゴ沼避難小屋にて停滞日となる。朝、足元の方で天麩羅を揚げている音がして‘何?’と体を起こすとSachiさんの頭元でたっぶりの油でスパゲティを炒めていた。二階に寝ていた我々が階下を覗くと隣に居た外人さんも10人位のグループも単独

のお嬢さんも小雨、霧雨の中を出て行った。荷物を置いて行ったグループが帰るまで我々のみで部屋を占領。がらんとした小屋の二階でOガイドの山談義に耳を傾け、北九州出身のM君から彼女のことや壮大なこれからの夢などを聞かせて貰った。

ガイドのOさんは8年前のトムラウシ遭難事件の現場検証に携わられたとの事で、事細かに聞かせてくれた。明日はその現場を通る。M君の作ってくれた朝食の餅入りチキンラーメン、夕食の五目寿司はアルミのコッヘル鍋で炊いたと思えないほど米に芯がなくて美味しい。工夫と実践の賜物だとか。彼は29歳で北の大地へ。ラフティングのツアー会社をしているがO氏に弟子入りして山のガイド資格も取り3年目になるという。北の人になって15年との事。多い時は十数人の朝夕食の食材を担いでのガイドも有ると云う。今回は未使用に終わったテントの入っている大きなザックを背負った後ろ姿はザックに足が生えているようだった。



第四日目

13日も雨具を着たり脱いだりで終う事はなかった。雪溪の歩き方は雨具のフードを取り、五感を研ぎ澄ませて歩く事、スプーンカットの乗り方や岩場でのストックを早く突くと足の置き場所の選択範囲が広がる等を教わった。冬山の経験が無いので誠に新鮮な情報となった。ロックガーデン、ハイマツ帯、北沼と現地を通る時に事故当時の生々しい遭難の様子を聞かせてくれた。追悼登山で捧げられた花束が膨大なゴミとなり、下に降ろす手間が増えた事も。国立公園を守る為に言われなければ分からなかった見えないご苦労を知った。白雲小屋から眺めた王冠の山頂を踏んだのは10時33分。11時発まで王冠の上に座り、皆と歩く事が出来た嬉しさを思う。

トムラウシ山に登頂。山頂標識は8年前にOガイドが背負って運び上げたそうだ。太くてしっかりした丸太、すごいなあ。有り難い事です。記念写真を撮ったら縦走完了。さて下山も心しなければならず、しゃがんで下りる高低差。一歩出して確認しなければズルッと滑る斜度で疲れた脚を過信しないようにと下山する。晴天が望めなかったので水溜りもあり、新道だと聞いた下山道はまるでヌタバ、田んぼの泥の中を歩くようで筋肉の疲れもマックス。一度泥の中に転倒したらすっかり諦めて心が晴れたがコマドリ沢を過ぎカムイ天上でヘッドランプの用意をするときはいささか参っていた。

薄暗くなってもヘッドランプの点灯は無い、人間も動物だから足元が見えるうちは不要と云われたので月明りもない道を大将にくっ付いて歩く。闇に慣れたのか不自由を感じず却って慎重になるのかつまずきや転倒がない。ライトを点ける頃やっと駐車場に着く。20時40分。国民宿舎東大雪荘で靴の泥んこを落とし温泉で汗を流した後の宿の食事はえもいわれぬ美味しさでした。歩いた日数は少なかったがゆっくりと大雪の固有種「ユキバヒゴタエ」「ホソバウルップソウ」や沢山の高山植物を楽しんだ山旅

となりました。

翌日は新得に移動して「トムラ登山学校」の施設に泊めて頂き蕎麦どころの町で蕎麦を味わうが、新そば祭りは9月25日。新得の町が賑わうことだろう。

小さな海外（津軽海峡）の山旅でしたが歩くことが出来た喜びは格別でした。先輩山仲間のお二人、智恵と技術を備え細やかな心配りとおおらかな山男のお人柄に魅了され続けたガイドさんのお陰で疲れ知らずの縦走を楽しめたことを感謝しています。（以上 Hoshi 記）

評価と反省

《 1. ガイド登山 》

振り返ってみて、今回はガイド同行だったことが大変に良かったと思っている。何が良かったかというと、それは精神的な安心感に尽きるのだろう。ガイドが同行してくれることでテントや食料などの共同装備を持たなくて済むという軽量化のメリットは勿論あるが、それよりも難しいコースに神経をすり減らし、万が一の対応を考えた行動を思案するような余計な精神的なプレッシャーが無い状態で行動ができるというのは一番に負荷が少なく済む山歩きができるということになる。実際、ガイド氏と一緒に行動していると歩くことと自分の体調管理だけにエネルギーを費やしていればよいことが判る。そんな訳で、難コースに悪天候だったが老体に鞭を打ちながら幸いにして当初計画通りに踏破することができたように思う。

《 2. 計画や装備と実際の相違点 》

まず装備について、事前のチェックリストに載せなくて実際にあった方が良かったと思えるものを挙げると、ヘルメットと登山靴が挙げられる。行程の大半を通してガレ場の連続である、何キロも続くガレ場と岩場の連続で石の大きさも大小ではなく大大と続いている。おまけに雨もしっかりと降って濡れているので滑りやすい。登山靴というのは軽量のトレッキングシューズのような底の柔らかいものではなく、以前履いていたような皮底の硬くて重いしっかりとした靴だと安心して歩けたらうにと、反省した。また、ストックについてだが、幸いにも持参したので問題は無かったが、普段使わないので今回はどうしようかと迷ったところがある。荷物にもなることだし外そうかと考えた時があったが持って行って正解だった。

そしてもう一点、ガイドに教えてもらったカット絆のこと。消毒液やガーゼを使わずに水だけで洗浄したところに強力絆創膏を貼って、自然治癒力で回復を早めるという方法。2か所ほどの擦り傷に適用して早々に回復したことを報告したい。

《 3. 山行記録 》

1日目：黒岳～北海岳～白雲岳～白雲岳避難小屋 <距離：9,850m、実時間：9時間8分>

2日目：白雲岳避難小屋～平ガ岳～忠別岳～ヒサゴ沼避難小屋 <距離：10,550m 実時間：9時間55分>

3日目：ヒサゴ沼避難小屋 停滞

4日目：ヒサゴ沼避難小屋～南沼キャンプ地～トムラウシ山～カムイ天上～登山口

<距離：19,5100m、実時間：14時間50分>

あとがき

豊富な高山植物による花の群落は他に類を見ない。その見事なまでの自然の美を体感するためには過酷とまで言えるような山行の術に頼る他はないのかも知れない。

一週の間、新聞もテレビも見ることなく、下山した後に泊まった山の会的小屋ではストーブで薪を焼べながらラジオ放送に耳を傾けた。忘れ難い北国のトレッキングとなった。（以上 Furu 記）